

# とまこまい市議会だよりアンケート調査の集計結果について

令和2年7月

## とまこまい市議会だより編集委員会

委員長	板谷	良久
副委員長	大西	厚子
委員	山谷	芳則
委員	大野	正和
委員	橋本	智子
委員	越川	慶一
委員	原	啓司
委員	桜井	忠
委員	触沢	高秀

令和2年7月16日

苫小牧市議会  
議長 金澤 俊 様

とまこまい市議会だより編集委員会  
委員長 板谷 良久

とまこまい市議会だよりアンケート調査の集計結果について

とまこまい市議会だよりの今後のあり方の参考とするため、令和2年4月から5月にかけて、2,000人の市民（18歳以上90歳未満）を対象にアンケート調査を行いました。集計結果は次のとおりです。

- 1 「市議会だよりを読んだことがありますか」という設問に対して690人から回答があり、「読んだことがある」という回答が447件で全体の65%、「読んだことがない」という回答が243件で全体の35%となっておりました。読んだことがあると回答した人を年代別に見ると、70代以上が115人、60代が114人と多くなっており、また、読んだことがないと回答した人を年代別に見ると、10代（18歳以上）から30代までが82人と特に多くなっていることから、年代により差があることがわかります。
- 2 発行回数についての設問に対して440人から回答があり、今までどおり「年4回」が良いという回答が199件で全体の45%となっており、次いで「年2回」が114件で26%、「発行しなくても良い」が64件で15%となっており意見は分かれています。適した時期に情報発信をすることを求める意見が多いことがわかります。
- 3 配布方法についての設問に対して433人から回答があり、「今までどおり全世帯配布が良い」という回答が268件で全体の62%となっており、このうち、60代で29%、70代以上で28%と全体の6割となる一方で、10代（18歳以上）から30代までが19人で7%と特に少ないことがわかります。
- 4 関心のある紙面についての設問に対して660件の回答があり、「定例会の概要」という回答が187件と最も多く、「会派のページ」という回答が103件と最も少なくなっていることから、会派の活動の発信方法について検討する必要もあると考えられます。

5 ページ数についての設問に対して414件の回答があり、「今までどおり（12ページ）で良い」という回答が237件で全体の57%と最も多くなっており、次いで「減らしたほうが良い」という回答が163件で39%となっていることから、現状維持もしくは減らす方向で考えることを求められていることがわかります。

6 読んだ印象についての設問に対して492件の回答があり、「内容によっては興味を引いた」という回答が285件と最も多くなっております。

また、読みやすくするために必要な工夫についての設問に対して581件の回答があり、「記事を充実させる」という回答が200件と最も多い結果となっております。

7 情報発信の方法についての設問に対して964件の回答があり、「広報とまこまいに掲載」という回答が395件と最も多く、年代による差はあまりない結果となっております。次いで「ホームページやSNS等の充実」という回答が273件で、10代から30代までや40代で多く、また、今までどおりの「市議会だよりの発行」という回答が135件で、70代以上で最も多くなっており、年代により情報を受信する方法に違いがあることがわかります。

また、この設問に、前述の配布方法についての考察を加えると、「今までどおり全世帯配布が良い」という回答の6割を占める60代以上が紙面による情報を望んでいることがわかる一方で、10代から40代まではホームページやSNSなどの電子媒体を望んでいることがわかります。

8 市議会だよりを読みやすくするための工夫の設問における自由記載では、わかりやすく工夫し、詳しく、興味を引く内容にしてほしいなどの意見があり、また、情報発信の方法の設問における自由記載では、広報とまこまいなどの紙面への掲載や、意見交換会などの直接的な伝達、ケーブルテレビやSNS等の活用などの意見もありました。

さらに、意見・要望の自由記載については、市議会だよりに関するものが122件あり、このうち、市議会だよりの発行に係る経費削減の意見が47件と最も多く、次いでSNS等の活用に関する意見が21件となっておりますが、各種意見の中に費用対効果に関することが多く書かれているなど、重要視すべきものと考えます。

以上、アンケート調査結果により、議会の情報発信は、適切な時期に、経費を削減した形で、年代の違う市民に対する工夫や会派の活動の発信方法の見直しの検討をし、情報発信の方法の変更が求められていることがわかる結果となりました。

よって、編集委員会としては、議会の情報発信の方法について抜本的に見直す必要があると考え、今後の市議会だよりのあり方について協議していただくべきと考えます。